

ありば ヒューマン ドキュメント

明るく、前向きに、
どんどんチャレンジ!

ほか その [外園さんファミリー]



明るく快活な外園さん一家

家族みんなが明るく、
生き生きと輝いて

錦江湾を見下ろす高台に、築百年は経つという外園さん一家の住まい。年輪を感じさせる大きな柱と梁はどっしりと安定感がある。お父さんの真さんは聴覚障害者の情報提供や手話講習の講師としてハーニアに勤務している。お母さんのさつきさんは、鹿児島市にある聾学校へ子どもたちを送り迎えをし、学校の役員も引き受けている。そして、子どもも猛君とあかりちゃん、聾学校の会話はすべて手話。一家全員話

す時の表情が生き生きしている。

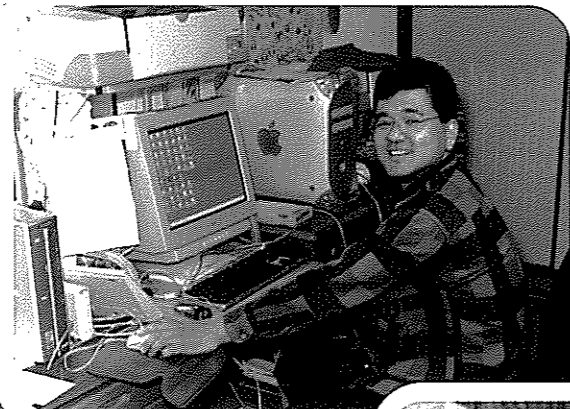
「私は三歳の時に高熱が出て聴覚を失い、そして話すことができなくなりまして。四歳の時には草刈機で腕を欠損するという事故に遭いました。高校卒業後、埼玉の国立職業リハビリセンターで写植オペレーター勉強しました。」そう語る真さんは、自宅ではパソコンでデザインも手がけている。生まれつき耳の聞こえないさつきさんはすべてに前向きで、車の免許証も早々に取得した。だれか困っている人がいたら、自分のことは後まわしにしてすぐ駆けつける性格である。

親子三人で、
むずかしい棒踊りに
チャレンジ

一昨年の秋のこと、猛君が喜入町の文化祭で披露される伝統芸能「棒踊り」に参加したいと言いつつ、猛君は、棒踊り保存会の子どもたちの稽古を見て格好いいと感じ、自分も練習を積んで多くの人に棒踊りを見てもらいたいと思った。その話を聞いたさつきさんは、「棒踊りは動きも激しい、みんなと合わせて踊るので、どうかなと思いました。でも、棒踊り保存会の方でも快く受け入れてくださいましたし、稽古

えましたが、猛は頭の中でリズムを数えながら、間合いをつかんで踊りを感じたようです。」そして、二人は文化祭当日、仲間とびったり呼吸が合い初舞台を飾った。「発表の日は胸がドキドキ。踊り終わって、会場からたくさん拍手をもらった時は、とっても嬉しかった。」と猛君。そして昨年は、あかりちゃんも踊りたいと言いつつ、小学校三年生以上じゃないと、踊るのはなかなかむずかしいが、小学校年のあかりちゃんも見事大役をこなし、親子三人は喝采を浴びた。「本当は私にも踊って欲しいと頼まれたんですけど、絶対出ないと逃げまわりましたよ。」と真さん。猛君とあかりちゃんは聾学校に通う一方で、月に一回地元の中名小学校の交流学習に参加し、地域の子どもたちといっしょに学んでいる。また、「すみれ会」という地域の子ども会に入り、クリスマス会や「あげな」などの行事を楽しみにしている。もし、外園さんたちが地域の活動に参加していなかったら、手話の大切さや、ろうあ者のことに地域の人々は気づかなかつたにちがいない。外園さんファミリーとふれあうことを通じて、障害者を理解し、支え合い共に暮らすと、地域の人々の意識も少しずつ変わって

パソコンで
デザインもこなす



なにことにも前向きな さつきさん



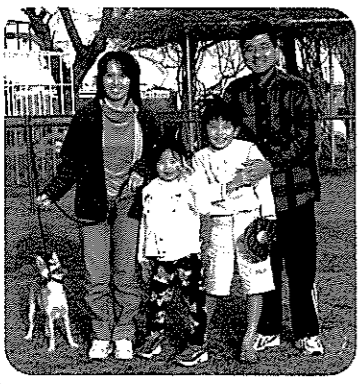
棒踊りのことを一生懸命語る子どもたち

どこに行っても
手話が通じる社会を。

交流の輪をひろげて、
夢はどんどん広がって

外園ファミリーは、四年程前に東京へ旅行した。お母さんは、東京ダンスランド、そして、障害者を持つ子どもたちにいるような経験をさせたい、というご夫婦の願いもこめられていた。東京まで飛行機を使えばひとつ飛びだが、鉄道を選んだ。そのわけは、猛君がどうしても新幹線に乗りたと言いつつ出たから。マイルストーンランドでは、ジェットコースターに乗ったし、ミッキーにも会えた。でも、新幹線のお速さにはびっくりしちゃうた。「と猛君。東京では、同じ障害者をもつ真さんの友人たちと交流することができた。北海道や大阪など全国にいるような仲間がいて、彼等が鹿児島へ来た時は「泊まろうよ」といって、いろいろな交流を続けていく中で、その輪がどんどん大きくなれば、いいなと思っています。」と真さんは語る。そして、将来はDove(聴覚障害者)ファミリーの会を立ち上げたい。

どこへ行っても手話を通じる社会になって、健康者とうるあ者のより親密な交流を図りたいと、外園ファミリーの夢はどんどん広がって

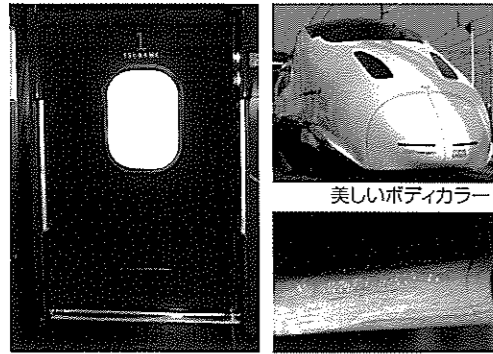


近くの中名小学校の交流学習にも参加

鹿児島島のいろいろな建物や施設、あるいは人の心の中にあるバリアが取りはらわれています。一人ひとりが、より快適で自由な暮らしが営めるように。

バリアフリー〜最前線

Barrier Free-Saizensen



車いすでの乗降もラクラク



手すりにも点字表示

●3月13日、念願の九州新幹線が開業。県内外への足回りがグーンと良くなったが、新幹線は速いばかりではない。実際に乗ってみると、いたるところにバリアフリー仕様が施されている。まず、6両編成のうち1号車15号車の乗降ドアが広くなっている。一般車両は66センチ幅だが、その倍近い約1メートルとあり、これなら車いすでの乗り降りも楽である。しかも15号車の車内に設けられた身障者専用シートには、車いすを固定できるようにになっている。床面はフラットで連結部分も段差なしなので、安心して車内を移動することができる。車両の入口には手すりが付いてあり、手すりの握りの部分に、号車番号の教える点字テープが貼ってあるのも親切だ。さらに、トイレ内には赤ちゃん専用の椅子であるベビーキープが設けられているので安心。洗面室も広くとってあり、洗面台の下には車いすが入るスペースを確保してある。車内全体が広く明るく、木製の椅子が落ち着きを与えてくれる。南から春を運ぶツバメのように、新幹線つばめもめくもりに満ちている。

速いだけではなく乗る人にやさしい。

九州 FILE No.1 新幹線 つばめ

(九州旅客鉄道(株)鹿児島支社) ●099-256-0185



広くて明るい車内

車いす使用者専用シート

専用シートには、車いすを固定できるようにになっている。床面はフラットで連結部分も段差なしなので、安心して車内を移動することができる。車両の入口には手すりが付いてあり、手すりの握りの部分に、号車番号の教える点字テープが貼ってあるのも親切だ。さらに、トイレ内には赤ちゃん専用の椅子であるベビーキープが設けられているので安心。洗面室も広くとってあり、洗面台の下には車いすが入るスペースを確保してある。車内全体が広く明るく、木製の椅子が落ち着きを与えてくれる。南から春を運ぶツバメのように、新幹線つばめもめくもりに満ちている。



車いす使用者専用の駐車場

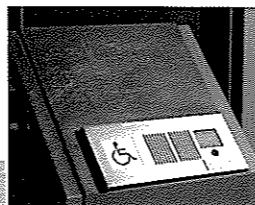
総合案内板がありわかりやすい。エントランスホールには、車いすのままでも使い勝手のいい電話台やウォータークーラーが設置してある。トイレは男子用、女子用、さらに多

大隅町岩川を中心とする国の大隅合同庁舎。昨年の秋に完成した薄茶色の庁舎は、まわりの緑に溶け込み清楚なイメージがたただよっている。道路から玄関まで20メートルほどの距離があるが、点字ブロックが敷き詰められてあり、玄関口に車を横付けできるようエントランスの底の下には車寄せが設けられている。入口には点字付きの

FILE No.2 使う人の立場で、細かい心くばりを。

大隅 合同庁舎

(館於郡大隅町) ●0994-82-5211

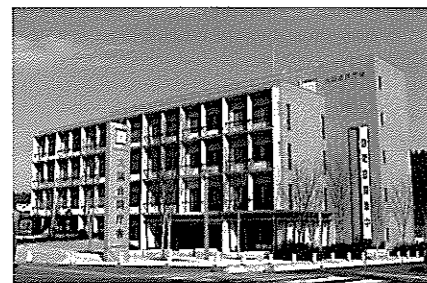


点字を配した案内板



広くて使いやすいトイレ

目的用と3タイプがあり、多目的用は自閉式の扉、光電センサー式の自動洗浄、温風乾燥機能付きの便座や自動水洗洗面器などが備わっている。とくに、男子用トイレにもベビーシートを設けてあり、使う人の立場に立った設計となっている。さらに、エレベーターで各階に降りると床の色が異なることに気づく。フロアを色分けしてあるので迷うことも少ない。階段部分も踏み面を30センチとかなり広く取っており、手すりも高低2段で利用しやすいつくりだ。



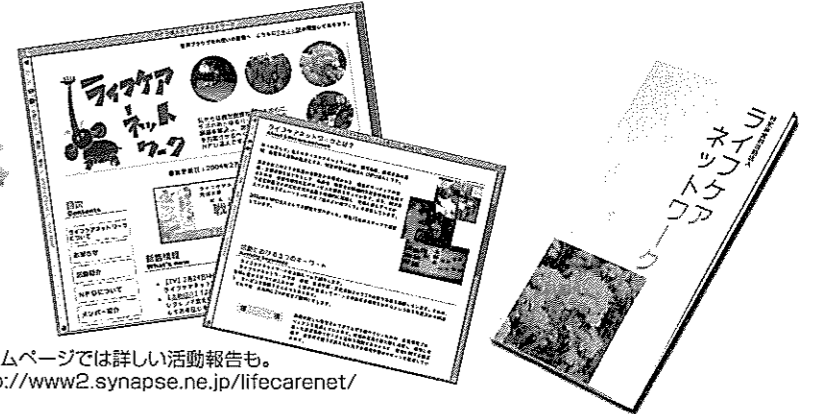
シンプルで街並みにとけこんだ外観

専門家による アドバイスと支援

薩摩半島の南端にひろがる温泉都市・指宿市。この街に「こだわり、生活支援、環境、文化活動」に取り組んでいるのがNPO法人ライフケアネットワークである。2年前の9月に13名で立上げ、現在は会員数72名、22の賛助団体という規模に発展している。活動の3本柱のうちの一つである生活支援では、福祉ボランティアの養成や活動支援、高齢者や障害者の積極的な社会参加のための支援活動を行っている。具体的には、自力で移動することがむずかしい高齢者や障害者の移送サービス、住宅のバリアフリー化に関するさまざまな相談にのり、必要であればその道の専門家が施工までお手伝いする。また、車いすの使い方を教えたり、視覚障害者の介助法、介助犬についての啓発活動などを行っている。

●ありば通心

すべての人が心豊かに暮らせる環境を NPO法人ライフケアネットワーク 生活支援、環境、文化活動の 三つの柱で地域のために。



ホームページでは詳しい活動報告も。
<http://www2.synapse.ne.jp/lifecarenet/>

実証フィールドで たえず研鑽



昨秋開かれたバリアフリー講演会

3つめが文化活動で、障害者と健常者がいっしょに楽しむ感動を共有できるレクリエーションの提供、音楽や映画鑑賞会の企画・運営などである。昨年11月には、福祉のまちづくりとしてバリアフリー参加型講演会を開催した。専門家を招いての講演会、ワークショップ形式で行われた住宅改修に関するグループ討議、さらに、福祉用具の体験コーナーや相談コーナー等も設けられた。「障害をお持ちの方が暮らしやすい住宅に改修するためには、医療の立場からみないといけないのです。ハードの部分もソフトの部分もですね。ですから、医療の専門家をお招きして、障害者への対応については時間をかけて学びたいと思っています。」



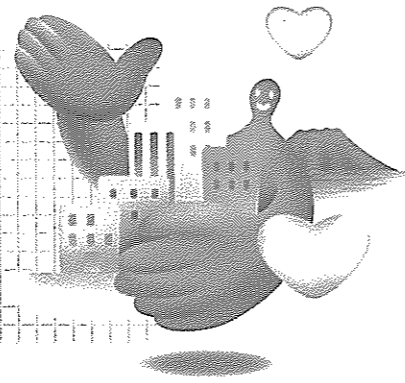
年間を通じて様々なプログラムが、



活動について熱く語る天野理事長

また、ライフケアネットワークは、会員が所有するホテルをバリアフリー化の実証フィールドと位置付け、ホテル内の設備の改修やホテルスタッフの教育にも関わってきた。その過程や結果から得られた資産を活動のエネルギーとして、さらに大きく羽ばたかすとしている。「指宿はよそと比べて太陽の光がちがうし、ハイビスカスなど花々も四季を通して咲きます。そうした指宿の良さにごだわり続けながら、地域のすべての人たちが心豊かに暮らせるようになったらいいと思います。」と天野理事長は結んだ。

鹿児島県からの お知らせ



「鹿児島県障害者計画」及び 「鹿児島いきいき障害者プラン21」を策定しました。

「鹿児島県障害者計画」の概要

国においては、障害者の社会への参加、参画に向けた施策の一層の推進を図るため、平成15年度を初年度とする10年計画の「障害者基本計画」を策定したところです。また、一方平成7年の「県新障害者対策長期計画」の策定以降、精神障害者に係る医療分野から福祉分野への施策の転換、介護保険制度の創設や措置制度から支援費制度への移行など障害者を取り巻く情勢は大きく変化してきています。

このようなことから、県においても国の動向に対応し、本県の障害者の実態を踏まえて、新たな障害者計画を策定することとし、障害者等へのアンケート調査によるニーズの把握や県民、市町村等から意見聴取を行いました。これらを踏まえ、障害者団体や市町村代表者等で構成する県障害者施策推進協議会での協議を経て、新たな「鹿児島県障害者計画」を策定しました。この計画は、今後10年間にわたる障害者施策の基本的方策を示したものです。

「鹿児島いきいき障害者プラン21」の概要

「鹿児島県障害者計画」の前期5か年の障害者施策重点実施計画として「鹿児島いきいき障害者プラン21」を策定しました。

詳細は県のホームページでとらんになれます。

<http://chukakunet.pref.kagoshima.jp/home/shogaika/keikaku/shyouvgaisya-top.htm>

【お問い合わせ先】鹿児島県 保健福祉部 障害福祉課

ありがた掲示板④ 福祉のまちづくり講演会 ～バリアフリー研修会開催～



福祉のまちづくり講演会



バリアフリー研修会

平成15年度福祉のまちづくり講演会が、11月ふれあいプラザなのはな館で開催されました。講師は、高萩徳宗さん。旅行をりハビリの手段としてとらえ、高齢者、身体障害者の旅行を企画しているそのユニークな活動や、「いきなり100点を目指すのではなく、ちょっとした気付き想像力でまず心の中のバリアを取り除く」というお話に聴衆の関心が集まりました。

また、県内11地区で開催された建築技術者講習会に、カラーコンサルタントの江良喜代子さんを派遣し、「高齢者や障害者のための色彩計画」をテーマにバリアフリー研修会を開催しました。設計者の経験と感覚だけに頼るのではなく、色彩の理論や高齢者や障害者の見え方を理解した上で色彩計画を立てることの重要性について、お話いただきました。

リレーエッセイ ハードルを越えて④

種子田 秀人さん
(鹿児島市)

障害者自立のために 少しでもお役に立てれば...

20歳の頃からずっと坐骨神経痛に悩まされ、12年前に脊髄腫瘍の手術を受けました。それから私の車いす生活が始まったわけですが、行動半径が狭くなったくらいで、とりわけ落ち込んだりということはありませんでした。昔から楽しんでいるラジコンヘリは今も続けていますし、5年前からフルートを習い始め、コンピュータもおもしろい。それに、車いす使用者じゃないと体験できないことも



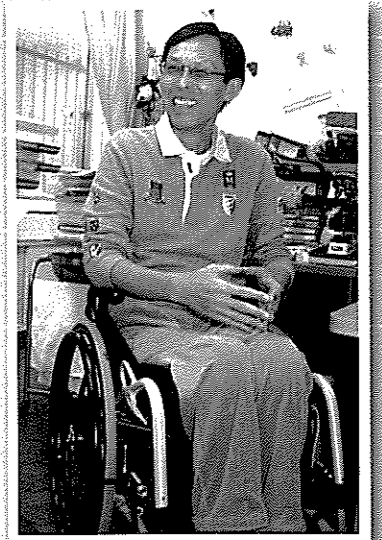
趣味のフルートも、みんなの前で演奏

あるんです。例えば、空港へ行って搭乗する際には、車いすでしか通ることができない通路があったり、高速道路では料金の割引も受けられます。車いす生活になって良かったと思うといえば語弊がありますが、それくらい私は今の生活に不自由や不便を感じていません。

障害者の中には、家に閉じこもりがちになって、外とのつながりが少ない人もたくさんいらっしゃいます。アマチュア無線なら声だけで外へ出かけることができます。インターネットなら、視覚、聴覚、言語、肢体不自由者でも情報を交換でき一つになれるのですから、もっと気軽に活用して欲しいですね。私自身も、そうした障害者の自立に少しでもお役に立てればと、自立のための訓練センターを構想中です。5～6年前にアメリカに行き感じたのは、向こうの福祉の充実ぶりです。レストランなどでは、障害者専用の駐車スペースを確保しないと営業許可が出ないといいます。日本でもずいぶんバリアフリー化が進んできましたが、まだまだ徹底されていないところも目に付きます。横断歩道の段差などは車いす使用者にとって大変なので、そうしたところは早急に対処して欲しいと思います。

●種子田 秀人(たねだひでと)さん

1951年 鹿児島市生まれ。
昭和大学医学部を卒業後、大学病院に勤務。
平成2年2月に「たねだ皮膚科・外科」を開業。
スポーツや音楽など趣味も広く、車いすという
ハンデを少しも感じさせない皮膚科の医師。



ハンデを全く感じさせない車いすでの診察

???
バリアフリー
Q&A

Q1 エレベーターについている鏡はなんのため？

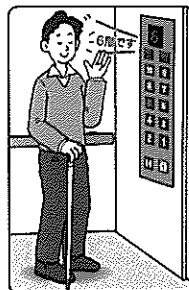
A 車いすを使用している方がエレベーター内で方向を転回しなくても、戸の開閉や背後の状況を確認できるようにするためのものです。エレベーターが狭かったり、他の乗客がいて車いすを反転できない場合など、車いすを後ろ向きにしてエレベーターから降りなければならぬこともあるからです。

シースルー式のエレベーターの場合は、天井近くに凸面鏡などが設置されていることもあります。



Q2 エレベーターの音声案内はなんのため？

A 視覚に障害のある方のために、エレベーターの到着階や戸の開閉、昇降方向などの情報を音声によって提供するためのものです。音声による案内がなければ、どの階に止まっているのか、上へ行くのか下に行くのかわかりません。



階段内の垂直方向の移動に重宝するエレベーター。どんな人にも使いやすいエレベーターの設置が望めます。

社長のまちづくり広報誌
ありば

VOL.7 平成16年3月31日発行

「バリア」の逆は「ありば」。

バリアフリーな社会を築くために、本誌はバリア反対!の意を込めて、「ありば」というタイトルにしました。

みんなに住みよいまちを、みんなで作るために。

人と人のバリアフリーコミュニケーションをご紹介します広報誌、それが「ありば」です。

【感想をお寄せください】

鹿児島県保健福祉部障害福祉課

〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10-1
TEL.099-286-2111(内線2743) FAX.099-286-5558
[E-mail] shougai@pref.kagoshima.lg.jp

営利を目的とする場合を除き、この本をそのまま読むことが困難な方のために、「録音図書」「拡大写本」等の読書代替物への媒体変換を行うことは自由です。製作の後には上記障害福祉課へご連絡ください。

視覚に障害を持つ方のために、本誌の点字版及び録音図書を鹿児島県視覚障害者情報センター(鹿児島市小野一丁目1-1 ハートピアがごしま3F TEL.099-220-5896)に備え付けてあります。